

株式会社SIGNING、新型コロナウイルスによる

暮らし・社会の変化の兆しを捉えた調査レポート

『Covid-19 Social Impact Report Final』を公開。

Covid-19 Social Impact Report Final

博報堂DYホールディングス傘下のビジネスデザインカンパニーSIGNING(サイニング)は、新型コロナウイルスに関する定期調査レポート「Covid-19 Social Impact Report Final」を公開しました。はじめての緊急事態宣言から1年以上がたち、ワクチンの接種がはじまる一方で、今なお感染者数は増加しており、新型コロナウイルスとの共生による生活者の暮らし・意識への影響は、これからも大きなものになることが予想されます。

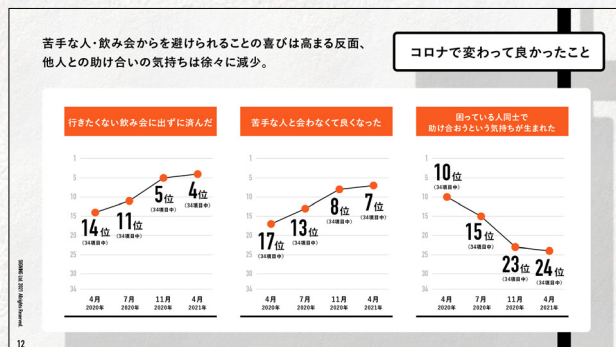
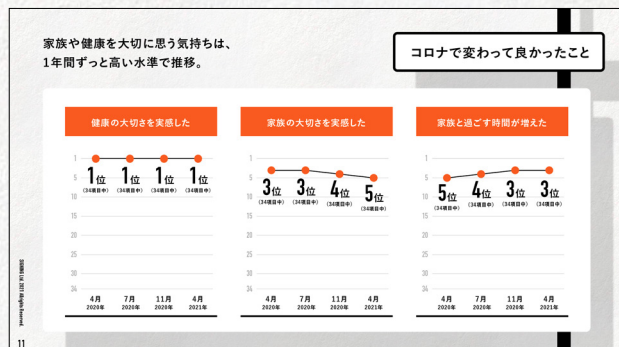
こうした状況にあって、「ふつうのヒトなんていない。」をテーマに、この1年間で起きた生活者の一人ひとりの意識の変化と最新の動向を分析しました。コロナ禍にあって未だなお非常時であり「ふつう」の状態ではないこと、その一方で1年を経て画一的な「ふつう」=「ニューノーマル」だけでなくそれぞれのやり方で暮らしの新しい様式化=「マイノーマル」が進められていることが分かってきました。本レポートをより多くの方の新たなビジネスに活用頂ければと考え、どなたでも使えるクリエイティブコモンズとして公開します。

レポート詳細はこちら: <https://signing.co.jp/pdf/covid19-social-impact-report5.pdf>

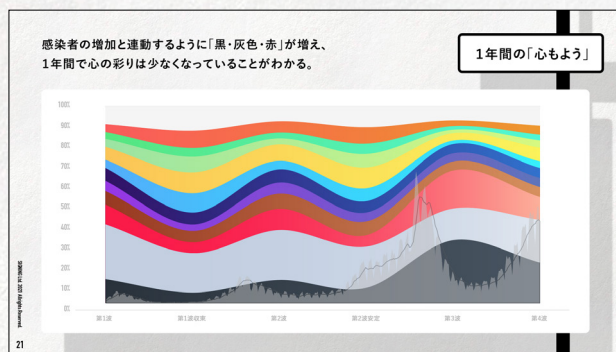
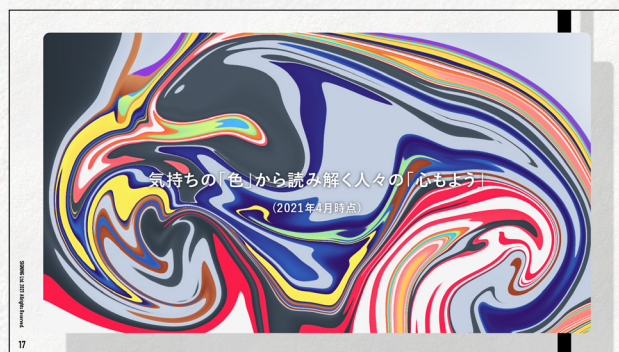
調査サマリー

PART1: Look Back in COVID-19.

コロナで変わってよかったこと



生活者の「心もよう」



PART2: 「ニューノーマル」から「マイノーマル」へ

わたしがこの1年でやり残したこと・新しく始めたこと・新たに挑戦したいこと

